

行列の固有値と固有ベクトル

定義

正方行列 A に対し、等式 $Ax = \lambda x$ を満たす

- スカラー λ を「 A の固有値」といい、
- ベクトル x を「固有値 λ に対する固有ベクトル」という。

ただし、 x は零ベクトルではないとする。

【2次の場合】

行列 $\begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}$ の固有値、固有ベクトルとは、

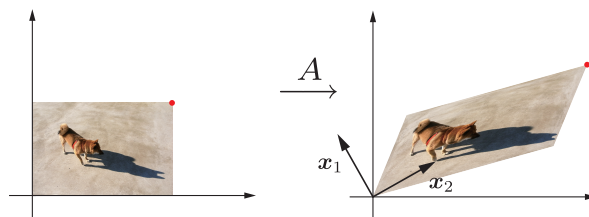
$\begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = \lambda \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ を満たすスカラー λ と、ベクトル $\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ のこと。

クォータ科目「数学」第13回（担当：佐藤 弘康） 1/6

固有値・固有ベクトルの意味（1次変換において）

例) $A = \frac{1}{24} \begin{pmatrix} 31 & 5\sqrt{3} \\ 5\sqrt{3} & 21 \end{pmatrix}$ の固有値は $\frac{2}{3}$ と $\frac{3}{2}$ 。

対応する固有ベクトルはそれぞれ $x_1 = \begin{pmatrix} -1 \\ \sqrt{3} \end{pmatrix}$, $x_2 = \begin{pmatrix} \sqrt{3} \\ 1 \end{pmatrix}$ 。



クォータ科目「数学」第13回（担当：佐藤 弘康） 2/6

固有値の性質

- 固有値・固有ベクトルの定義式を次のように変形、

$$Ax = \lambda x \Leftrightarrow Ax - \lambda x = 0 \Leftrightarrow Ax - \lambda E x = 0 \Leftrightarrow (A - \lambda E)x = 0$$

- 仮に、行列 $(A - \lambda E)$ が正則ならば、逆行列 $(A - \lambda E)^{-1}$ が存在する。
- $(A - \lambda E)x = 0$ の両辺に、左から $(A - \lambda E)^{-1}$ をかけると、

$$x = E x = (A - \lambda E)^{-1} (A - \lambda E)x = (A - \lambda E)^{-1} 0 = 0$$

よって、 $x = 0$ となる。（これは、 $x \neq 0$ に矛盾）

- つまり、 λ が A の固有値ならば、行列 $(A - \lambda E)$ は正則ではない。

固有値の性質

λ が A の固有値である $\Leftrightarrow (A - \lambda E)$ は正則ではない $\Leftrightarrow |A - \lambda E| = 0$

クォータ科目「数学」第13回（担当：佐藤 弘康） 3/6

固有方程式

- 一般に、 A が n 次正方行列ならば、 $|A - \lambda E|$ は λ に関する n 次多項式。
- つまり、 A の固有値は、 n 次方程式 $|A - \lambda E| = 0$ の解である。
(この方程式を固有方程式とよぶ)

固有値の性質（求め方）

λ が A の固有値である $\Leftrightarrow \lambda$ は固有方程式 $|A - \lambda E| = 0$ の解である。

クォータ科目「数学」第13回（担当：佐藤 弘康） 4/6

固有ベクトルの性質

- 行列 A の固有値 λ に対応する固有ベクトルは

$$(A - \lambda E)x = 0 \quad (*)$$

を満たすベクトル x (ただし、 $x \neq 0$)。

- $x = \begin{pmatrix} x \\ y \\ \vdots \end{pmatrix}$ とおくと、(*) は、 x, y, \dots の連立1次方程式となる。→ 連立1

次方程式の解が固有ベクトルである。

- 一般に、 x が行列 A の固有値 λ に対応する固有ベクトルならば、
 kx も行列 A の固有値 λ に対応する固有ベクトルである (k はスカラー) 。→ 固有ベクトルは一意的に定まるものではない。

クォータ科目「数学」第13回（担当：佐藤 弘康） 5/6

固有値・固有ベクトルを求める手順

(ステップ1) 固有方程式

$$|A - \lambda E| = 0$$

の解 λ (← 固有値) を求める。

(ステップ2) (1) で求めた各固有値 λ に対して、連立1次方程式

$$(A - \lambda E)x = 0$$

の解 $x = \begin{pmatrix} x \\ y \\ \vdots \end{pmatrix}$ (← 固有ベクトル) を求める。

クォータ科目「数学」第13回（担当：佐藤 弘康） 6/6